

創刊号

INUYAMA-GAKU

広
報
誌

犬山学



犬山学研究センターの目的と期待

特集 四者座談会

INUYAMA-GAKU | 2017.10 | FIRST ISSUE

祝辞

愛知県知事
大村 秀章



この度、関係各位のご尽力により、「犬山学研究センター」が設立されましたことを、心よりお慶び申し上げます。同センターは、地域に根差した研究プラットフォームの構築を目的に設立されたものと伺っております。

また、同センターは、県が昨年度初めて開催した「あいち学生観光まちづくりアワード」において、優秀賞を受賞した、世界的にも珍しい犬山市周辺の地層を観光資源として活用していこうという提案を核に活動されております。学生ならではの視点による新しい試みは、犬山市はもとより、本県の活性化につながるものと期待しております。

この「犬山学研究センター」が、愛知の魅力をより広げていく試みの一つとして、そして、産官学の連携により地域を盛上げ、人材を育成していく貴重なプラットフォームの一つとして飛躍されますことを、心より祈念いたしております。

挨拶

犬山学研究センター長
中村 真咲

名古屋経済大学は、市邨学園111周年記念事業の一環として、犬山学研究センターを設立致しました。センター設立にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

犬山は、木曽川・飛騨川・中山道が交差するために古来より尾張・美濃・飛騨・信濃を結ぶ商業・文化・情報の結節点として栄え、川の文化と山の文化が交わる「犬山文化圏」と言うべき独自の文化圏を形成してきました。

本センターは、そのような犬山の豊富な地域資源(歴史、自然、産業)を研究し、体系的な犬山学として構築するとともに、地域の研究機関・NPO・市民団体・地方自治体・企業と協力して産官学連携ネットワークを構築します。

また、地域資源をデジタル機材によってアーカイブ化・教材化し、あるいは体験型教育プログラムとして開発・公開していくことにより、学生・市民・中高生が犬山の忘れられた魅力を再発見し、深い地域理解を持って地域の課題解決に取り組むことができる人材、そして日本の歴史・文化・社会をアジアとの比較において理解し、地域の国際化に貢献できる人材として成長していくことを支えます。

このような本センターの活動にご理解、ご支援をよろしくお願い致します。

筆文字:犬山城白帝文庫 理事長 成瀬淳子
写 真:犬山市観光協会

テーマ

犬山学研究センターの 目的と期待

犬山市長
山田 拓郎
犬山商工会議所 会頭
日比野 良太郎
犬山城白帝文庫 理事長
成瀬 淳子
名古屋経済大学 学長
佐分 晴夫

本年4月、名古屋経済大学は地域に根差した研究プラットフォームの構築、研究スタートアップ支援、地域社会の課題解決のためのシンクタンク機能、地域社会への情報発信、市民への生涯学習の場の提供を目的とした「犬山学研究センター」を設立いたしました。

今回は山田拓郎犬山市長、日比野良太郎犬山商工会議所会頭、成瀬淳子犬山城白帝文庫理事長をお招きし、本学学長と共に、犬山学研究センターについての意見交換をしていただきました。

犬山学研究センターの発足

佐分 本日はどうもお忙しいところありがとうございます。この度、犬山学研究センターが発足することになりました。これを考えついた経緯をお話しさせていただき、犬山に深く関わりのある皆様へ、犬山学研究センターに対するご期待とご提案を頂ければと思います。

犬山学研究センターの設立を思いついたのには次のような経緯があります。私ども名古屋経済大学は犬山にある唯一の大学として、地元に着目して教育をしていく中で、座学ではなく、現場に出て問題を考えるという「体験型学習」というものをこの3年間展開してきました。この体験型学習の中で例えば犬山の観光戦略を考えるときに、犬山には実に多くの歴史、自然、産業資源があり、まだ知られていないものも多いのではないかと疑問が生まれました。大学として、これら犬山にある資源を総合的に研究をすることを「犬山学」とし、それを進めるために「犬山学研究センター」を発足させたわけです。

私自身、この研究センター発足に向けて準備する中で非常に驚いたのは、犬山には京都大学霊長類研究所や、東京大学生態水文学研究所の演習林や、名古屋大学地震火山研究センターの観測所があったり、明治村、リトルワールド、日本モンキーセンターの3つの博物館があり、それらには学者や研究員がいて研究をしています。この他にも本日お越しいただいている犬山城白帝文庫、NPO法人ではニワ里ねっと、犬山里山学研究所など様々な研究機関があります。しかしこれらの研究機関は必ずしも横のつながりが十分ではないため、これらをつなげるためのネットワークづくりが重要だと考えました。

既にいくつかの研究機関にはご挨拶に伺ったんです。伺う前は、話を聞いていただけるか半信半疑でしたが、実際には多くの機関で「よく思いついてくれました。もともとそういった機関が欲しかったんです」と仰っていただきました。

今回の座談会には犬山の産官学の皆様がお揃いですので、犬山学研究センターについてご意見、ご提案をいただいて、さらに発展させていきたいと思います。ぜひ、犬山学研究センターを犬山の教育研究機関の中核として発展させていきたいと思いますので、宜しく願い致します。

山田 まず名古屋経済大学と犬山市は協定を結んでおり、この関係を密にしていこうと、この「犬山学」の取り組みを進めていこうとのアクションを起こしていただいたことは、犬山市にとってこれほどありがたい事はありません。

犬山市は「教育のまち」として、全国的にも非常に注目を浴びていたのですが、さらにこの「教育のまち」からバージョンアップして「学びのまち」にしていく、これが犬山市教育大綱の基本コンセプトなんですね。今までの「教育のまち」づくりの中では、自ら学び続ける人づくりをしていこう、という方向性だったのですが、さらにこれだけではなく、感性を豊かにしていこう、ということがバージョンアップの肝なんですよ。なぜ感性なのかというと、これから人工知能の技術が進んで、これまで人間が行っていた仕事や人間の役割が変わっていき、これからの人の生き方やどういった人材が社会に求められるのかも変わってくる。そうなった時に、これからの時代に人間にしかできないものって何だろうと考えたときに、新しい価値を生み出すことが必要なんですね。この価値を生み出すのは、人間の感性なんです。これら感性を育てていく為に、犬山学は願ってもないことですので、ぜひ連携をとっていきたい。

例えば、人口減少社会の中で、地域の担い手不足があります。犬山でも企業や農業の後継者問題があります。犬山学には、そういった地域課題の解決に向けた学びも含まれているのでしょうか？

佐分 当然含まれると思います。例えば城下町を軸にしたコミュニティが犬山にはあるのですが、そういったものは現代社会では失わ

木曽川の恵み

佐分　やっぱり木曽川があったからですか？

日比野　水があったのと、桑畑があったからですね。滝学園に通っていた頃、通学路は桑畑でいっぱいでした。桑の実を食べながら通ってましたね。

成瀬　だから扶桑なんですよ。

日比野　そう、そもそも桑の関係です。伊達に扶桑じゃないですよ。犬山という土地柄は、この近辺にはなかなか無い城下町という大きなコミュニティがずっと歴史の中にあることが、他の町とはちょっと違う。

成瀬　戦国時代は木曽川を制する者は天下を制すると言われて、取り合いがあったんですよ。そう考えると、木曽川の川の流れというのは重要なものだったんですね。

日比野　木曽川の話ができましたが、上流で炭を焼いて木曽川を利用して犬山に着くわけですよ。そこから名古屋に運んだんです。そういった炭間屋があります。

佐分　炭なんかは相当重要な資源であり、産業だったと思いますよ。

日比野　材木も役に組んで、木曽川を使って運んだんです。犬山の材木町はそこからですよ。材木町で陸揚げして、当時大きな材木間屋があったんですが、その火災が有名です。

　それから今では禁止ですが、川で玉石を拾って売っていました。どういことかと言うと石垣の材料として使われるんです。木曽川から相当な量が使われたと思いますよ。

犬山学年表

成瀬　犬山城郭は明治に廃城令によって解体されたんです。天守のみ残ったんですが、それ以外全て解体して売却されました。

日比野　さらにその売却した資金で犬山北小学校を作ったんです。

成瀬　犬山北小学校はそうなんですか！

日比野　その資金が無かったら犬山北小学校はできなかったんです。当時の村長が資金を作るために解体した材料を売ったり、どこかの門になったりね。奥村邸の倉の材料もそうですよ。

佐分　そういう形で残っているんだ。

日比野　それと私が思うのは、犬山に関する年表を作ると良いと思うんだよね。

佐分　年表は研究する時の基礎ですからね。それでどんとん書き加えられるわけだ。ぜひ、それはやりましょう！

成瀬　犬山学年表を作ればいいんですよ。お城の歴史も産業の歴史も含めて一つの長いものを作ればいい。

日比野　全部含めた長いやつをね。一目瞭然の。

からくり人形と遊び心

山田　2020年に東京オリンピック・パラリンピックがあるんですけど、スポーツの祭典ということだけじゃなくて、政府としては文化も発信する場でもあるという側面がある。犬山もスポーツだとなかなか難しいですが、文化ということだと世界にアピールすることがある。

　オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査の試行プロジェクトというものがあります。オリンピック・パラリンピックの時に、日本の文化を世界に発信するためにはどういった仕立てが良いのだろうかというものを実行プロジェクトとして実施しようと考えているところなんです。それに犬山の「からくり」が今年採択されました。そういった流れも犬山学に関係してくると思います。

佐分　からくりについての提案で、市長も知事もいいねと言っていただ

成果は、いかにしてそのハゲ山を雑木林に復元したか、これが非常に上手くいって記録として写真も全て残っています。単に自然といっても産業とも環境問題とも結びついているんですよ。こういったこれまでの研究成果も広めていかなければならない。

山田　一度全て洗い出した方がいいですね。すごくたくさんありますよね。自然でいえば希少な動植物ですとか。文化人で言えば内藤文草*²なんかもそうですよね。現代の人物で言えばソフトバンクの宮川潤一*³さんだって一つの犬山の象徴だと思うんですよ。IT業界のトップレベルの人間が犬山出身なんですよ。ステーブジョブズの右腕だった前刀禎明*⁴さんとかね。犬山ゆかりのITトップランナーがいるわけですよ。佐分　そうなんです。経営学の観点で考えると、犬山で育ったことと関係があるのかもしれないね。

山田　他にも歴史で言えば、小牧・長久手の戦いのような日本史上の大きな合戦の一つの舞台がここになったわけですからね。言い出すと本当にたくさんあるわけです。あと自然環境で言えば、八曽湿地は希少な動植物がありますからね。ヒメタイコウチとかね。湿地サミットも開かれたことがあります。

　あと画家の宇野藤雄*⁵さんもすごいですね。フィギュアスケート選手の宇野昌磨選手の祖父で、犬山に住んでいらっしゃる。それに、大縣神社の歴史だけ見ても面白いですね。

日比野　大縣神社は紀元前からの歴史だからね。

山田　名鉄でもありますね。明治村もリトルワールドもモンキーパークもありますよね。名鉄にとって犬山の位置づけというのは、今でも高いものがあると思いますね。

佐分　メインの駅が名鉄にあるとすれば犬山だと思うんですよ。これだけの線がクロスしていて。名古屋駅は、ただの通過駅ですから。10月21日(土)に犬山学研究センター設立記念シンポジウムを明治村で行いますが、名鉄さんには色んな形で関わって頂きたいですね。

成瀬　日本の屋外テーマパークの敷地面積では、2位がリトルワールド(1,230,000㎡)で3位が明治村(1,000,000㎡)ですからね。2位と3位が犬山だってところがすごいな。

佐分　明治村は世界に誇れますから。外国からお客さんが来た時に、どこへ連れていかと言ったら明治村ですよ。特にアジアの方たちには。

成瀬　いま出てきたような犬山にまつわる話をみなさんご存知無いと思いますよ。地元の方ならではの話で、今日の話は何えただけでもすごい感動ですよ。さっきの繊維産業の話も、繊維と言えば一宮だけと思ってたから、そうじゃないということが分かって、目から鱗です。



犬山城白帝文庫 理事長 成瀬 淳子

第12代犬山城主成瀬正俊の長女として東京に生まれる。昭和62年昭和女子大学卒業。大手印刷会社、広告代理店に勤務。平成12年1月父正俊より、国宝犬山城と成瀬家伝来の所蔵品の維持保存を全面的に任される。平成16年4月1日財団法人「犬山城白帝文庫」設立、理事長に就任。白帝文庫を通し、文化財の維持保存と古く新しい情報の発信に尽力。



大山商工会議所 会頭 日比野 良太郎

昭和16年10月10日生まれ。平成6年6月 株式会社みやこや代表取締役社長に就任。平成22年11月より大山商工会議所会頭(3期目)第4代。その他(団体含む)、株式会社千樹 代表取締役会長、NPO法人いぬやまeコミュニティネットワーク理事長、犬山まちづくり株式会社 代表取締役社長、愛知北エフエム放送株式会社 代表取締役社長を務める。

佐分　「犬山学」という名前を付けるにあたって議論があったんです。犬山だけじゃないのではないか、という意見もありましたが、わかりやすいという意味でも「犬山学」という名前をあえてつけました。先程の話でもあったように、経済圏とか人の流れを含めて、犬山だけではなく、周辺地域も関係するのは確かです。もう一つは、名古屋経済大学というのは社会科学系の学部が中心で、研究分野も限られているわけです。これからいろいろな切り口で研究していく場合に、犬山在住の方だけではなく、様々な大学の研究者に協力をしていただき、どこから見ても評価されるような犬山学を作り上げていかないといけない。この研究者を束ねることも犬山学研究センターとしての役割であると思います。

犬山学の青写真

日比野　栗栖からはアンモナイトの化石が出てるんですよ。

佐分　最初はアンモナイトがここにあるわけない、誰かがここに捨てたものだと言われたそうです。名古屋大学に調べてもらって、このアンモナイトが犬山の地層から出たものだと特定されたそうです。

山田　ニワ里ねっとさんがアンモナイトの化石についてシンポジウムを行いました。まだ市民にも広くは知られていないでしょうね。

成瀬　犬山学というと、私は犬山城にも関わることになるかと思います。成瀬家に伝わる家訓や歴史は今の時代にも共通する部分があって、人を思いやることを非常に厳しく教えています。そういった犬山城に関わることだけではなく、精神的な部分についても皆様に発表する場があればと思います。犬山学という言葉が、色んなことを知るきっかけになればいい、という感覚で受け止められたいなと思います。それをきっかけに色んなものに発展していくとして、まずは切り口として犬山学というところに入っていくことが必要なかな、これは老いも若きも必要なのではないかと思います。

日比野　具体的に犬山学の青写真はどのようなものですか？

佐分　研究の柱はあります。犬山城下の歴史研究、犬山の自然誌の研究、それから犬山の経済経営史。名古屋経済大学では、犬山学について研究しようという意欲のある研究者には、スタートアップのための補助金を出します。

　そういえば、犬山学を始めるために色々調べて面白かったことは、この犬山の山は一度ハゲ山になっているんです。それは窯業が原因だったんです。

日比野　そうなんですか。瀬戸の窯業に使う薪ですね。

佐分　木曽川的美濃側の対岸は、木を運ぶのが面倒だったから残ったんですね。これについても東京大学の研究所が行った一つの研究

れつつあるわけです。老人介護という現代ではビジネスとしての介護でしかないのですが、本来は地域のコミュニティーがしっかりしていれば、孤独死や飢えて亡くなることもあり得ないわけで、高齢化社会の中で伝統的なコミュニティーをどうやって、現代的なコミュニティーに活かしていくかが課題だと思います。

　それから若い人口を急に増やすことは不可能ですが、対策として名古屋経済大学でも積極的に留学生を受け入れ地元に住居することを勧めており、これを地域の活性化にも繋げていくことに取り組んでいます。これも立派な犬山学のテーマになるわけです。

山田　犬山学というのは、学生が学ぶものですか、一般の方ですか？

佐分　全てです。もっと言えば、犬山学研究センターで行った研究成果を活かした授業を学生が受ける。あるいは市民に対してその成果を提供するとか、学会でも報告する、非常に多様な役割を果たします。

日比野　犬山学というものをご提案いただいたことに感謝いたします。犬山を深掘りしてそれを後世に伝えていく、こういった作業は今まで無かったと思います。犬山の歴史と言うとジュラ紀まで遡る話ですからね。こういったこともまだ知らない人がたくさんいる。さらには犬山城が出来る前と出来た後の歴史も重要なファクターですから、歴史を深掘りして「犬山学」としてきちんと体系立てて後世に伝えていく。こういった事も犬山学の役割ではないかと思うわけです。

犬山の産業史

日比野　産業で言えば、もともと犬山は養蚕が盛んでした。犬山駅の東にはニチボーの製糸工場があったんです。8万坪もあったんです。それから東洋紡は現在もありますが、フィルムの関係で今では繊維とはまったく関係が無くなっています。また戦後に町の商店が集まって犬山百貨協同組合が発足されました。この組合がニチボーと東洋紡の社員さんにチケットを配って、そのチケットでお買い物してもらい、後日会社で清算して給料日に支払ったりもしていたんです。私の記憶では3と8の付く日は、歩けないくらいの人でいっぱいでした。

佐分　養蚕は確かに日本の近代化の重要な産業ではあったけれども、どこの地域にもあった産業だと受け止めていました。具体的にニチボー*¹、東洋紡という名前が出てきて半端な規模では無かったことがわかりますね。

日比野　ええ、戦後も商店街の売上の10%～15%はニチボーさん東洋紡さんだったんじゃないですかね。そういった事も研究で掘り下げていただいて後世に伝えていく作業を、いつかどこかでやっていただきたいです。



犬山市長 山田 拓郎

昭和48年4月犬山生まれ。名古屋経済大学卒業。民間企業勤務、県議秘書等を経て、平成11年犬山市議会議員に初当選。以降市議を四期務める。議長、副議長、監査委員などの要職を歴任。平成26年11月犬山市長に初当選。

いたことが、からくりをロボットが操作する、というものです。犬山のからくりは複雑な動きをするし、人間が実際に動きを見ながら操作しなければなりません。今のロボットは目の機能が発達して、それができるようになってきた。これを使ってロボットがからくりを操作する。

日比野 今は人間が操作しているからくりを、ロボットが操作する。それは面白い。

山田 からくりで試行プロジェクトに手を挙げたのには理由があるんです。それはオリンピック・パラリンピックの本番で関わりたいと思ったんです。開幕式に車山を総揃えするとか。日本の象徴として祭りもあります。からくりという技術の切り口も非常に面白いと思ったんです。

佐分 この地方のモノづくりの基本になってますよね。

山田 そうなんです。茶運び人形だってものごく遊び心があるじゃないですか。人形がお茶を運んだり、文字を書いたり、弓を引いたり、当時の人って粋ですよ。これが感性なんです。その感性が新しい価値をつくり、日本の技術の土台をつくって応用してきた。

佐分 それは単なる工業化だけじゃなくて、文化の問題ですよ。江戸時代の文化水準は高いですよ。からくりも実用性というわけではなく文化ですよ。

日比野 当時だからからくり人形は何かの生産性を上げるために作ったんじゃないで、単なる遊び心ですよ。しかも人形が弓を引いた後に、ニコッと笑う。あれは面白い。まさに遊び心ですよ。

山田 その発想というのは、私も職員訓の中に入れてますが、遊び上手は仕事上手だと。仕事上手は遊び上手。これはつながっている。もっと言うと、学びの中に遊び有り、遊びの中に学び有り。その象徴がからくりなんです。そしてそれが試行プロジェクトに採択されたのは、非常に大きいことですから。犬山学の中にそういったコンセプトを組み込むのも面白いと思いますよ。

佐分 たしかに産業の基礎というのは誰でも理解できるけれど、さらに遊び心をどうやって評価するかのですね。

成瀬家と犬山祭

日比野 犬山祭も成瀬家が奨励されたんですよ。

山田 鶴飼も始めてますからね。成瀬家のみなさんは非常に遊び心があって、おしゃべりだと思えますよ。初代の成瀬正成^{*6}公は、犬の頭巾を被っていて秀吉の目に止まり、家臣に欲しいって言われたんですから。

成瀬 良きに計らえ、が好きで犬山祭の車山にも犬山城の欄干が真似てあるんですよ。あとは亀崎潮干祭りもそれでできちゃったって話ですね。もともとは成瀬家の保養地として、あのあたりを開拓していったん



名古屋経済大学 学長
佐分 晴夫

名古屋大学法学部卒業。同大学院法学研究科博士課程単位取得中退。同大学法学部助手、助教授、金沢大学法学部助教授、同大学教授を経て、名古屋大学法学部教授。この間、同大学評議員、同大学院法学研究科長、同大学副総長。2012年名古屋経済大学副学長を経て、2017年4月より現職。

です。ところがその後、徳川光友^{*7}が隠居した時に尾張徳川家のものとなってからは、150年間返してもらえなかったんです。それをやっと思ってもらったときに亀崎の町人が、成瀬家にまたお祭りをやってもいいかを聞いたところ、良きに計らえの一言で始まったんです。

日比野 それじゃあ、犬山祭とも関係があるね。

成瀬 犬山祭も始まった年代に意味があるんです。あんまり知られてないですけど、二代目の成瀬正虎^{*8}は女の子が続いて、ようやく男の子が生まれた翌年に、犬山祭が始まっているんですよ。という事は嬉しさのあまり、また良きに計らえと言って奨励したんじゃないかと思えます。

犬山学の終着駅

日比野 この犬山学の終着駅はあるんですか？

佐分 私が一つ思い描いているのは、「犬山学」のコンセプトの下での学術研究の総合化です。今の若い研究者のテーマは蜻蛉化して非常に細分化されているという問題提起があります。犬山学の話をしている中で、実は地層の問題と犬山城があるそこにあるのは関係があるという指摘があったんですが、お城ってほしい地盤の良いところにあるじゃないですか。先程の話のように様々なテーマが犬山にはあり、既にそれを研究している人がそれぞれいる。その個人で行っている研究者たちを犬山学というネットワークで結ぶことで、全く新しい視点が生まれ学問の総合化ができるのではないかと思うのですが。

日比野 犬山城の西側は断層ですからね。城下町は馬の背と言って、馬の背中の形をしているわけです。

佐分 地層の問題にもつながりますね。とりあえずは枠をあまり決めずにテーマは幅広く、若い研究者には自由な発想で提案してもらい、さらにそれがバラバラの成果が出るだけじゃなくて、横のつながりが重要で、犬山をテーマにしたことによって生まれるものがあると思います。研究が細分化してしまったからこそ、気がつけなかった問題を発見できる。そういった事に期待をしています。

既存の学問体系による研究だけでなく、もう少し幅を持って研究するような、横のつながりを考えるとすれば、今の時代に求められている非常に重要な研究になると思います。

成瀬 息の長い研究になりそうですね。

佐分 そうなんです。大学が続く限りじっくりゆっくりとね。本日はありがとうございました。

P2

※1 ニチボー 1889年に有限責任尾崎紡績会社として創立。1918年に大日本紡績株式会社に変更、さらに1964年にニチボー株式会社に変更。1969年に日本レイヨン株式会社と合併し、ユニチカ株式会社が発足。

P3

※2 内藤 文草(ないとう じょうそう) 犬山出身の江戸時代前・中期の俳人。尾張藩犬山領主成瀬家家臣内藤源左衛門の長子として生まれ、本名は本常。号を文草と称す。松尾芭蕉の門人となり、蕉門十哲の一人。

※3 宮川 潤一(みやかわ じゅんいち) ソフトバンク株式会社専務取締役 兼 CTO。

※4 前刀 禎明(さきどう よしあき) 株式会社リアルディア代表取締役社長。ソニー、ペイン・アンド・カンパニー、ウォルト・ディズニー、AOLなどを経て、アップル米国本社マーケティング担当バイス・プレジデント(副社長)兼 日本法人代表取締役。2007年、株式会社リアルディアを設立。

※5 宇野 藤雄(うの ふじお) 日本画家。1927年生まれ。犬山市在住。フィギュアスケートの宇野昌磨選手は孫。

P4

※6 成瀬 正成(なるせ まさなり) 幼少より徳川家康に小姓として仕え、小牧・長久手の戦い、小田原攻め、関ヶ原の戦いで活躍。堺奉行、江戸幕府老中、駿河年寄の要職を歴任し、尾張藩附家老。二代將軍徳川秀忠から犬山城を拝領し、その子孫は犬山城主を世襲するとともに代々尾張藩の筆頭家老を務めた。

※7 徳川 光友(とくがわ みつもと) 尾張藩二代藩主。尾張藩の官制整備、林業制度の確立、軍備増強など藩政の基礎を固めた。

※8 成瀬 正虎(なるせ まさとら) 成瀬正成の長男。二代將軍徳川秀忠に小姓として仕え、大阪の陣に従軍。父正成の死で尾張藩附家老となる。犬山城主成瀬家の第二代当主。

TOPICS

犬山学研究センターの活動報告と今後の活動予定

【活動報告】

●2017年2月2日(木)

犬山学研究センター設立準備委員会の発足

●2017年4月1日(土)

犬山学研究センター設立

●2017年5月22日(月)

第1回犬山地層勉強会

「犬山とその周辺の地質の特徴」開催

(講師:足立守・名古屋大学PhD登龍門推進室特任教授、犬山市役所204会議室にて)



●2017年7月10日(月)

第2回犬山地層勉強会

「地質を身近に～ガイドマップと地域おこしの事例～」開催

(講師:高橋裕平・名古屋大学博物館特任教授、

犬山市役所203会議室にて)



●2017年10月2日(月)

第4回犬山地層勉強会

「船から見た地層～木曾川の地層観光遊覧船に関する実

証実験～」開催

【今後の活動予定】

●2017年10月21日(土)

犬山学研究センター設立記念シンポジウム開催

(博物館明治村・聖ザビエル天主堂にて)



●2017年11月～12月

第5回犬山地層勉強会「ジオ鉄®入門－大地の物語を楽しむ鉄道旅への誘い」開催予定

(藤田勝代・深田地質研究所主任研究員、深田研ジオ鉄普及委員会委員兼幹事、犬山市役所)

●2017年12月～2018年2月

犬山学サロン(外部講師と教職員・学生が犬山学の魅力

について議論するサロン、学内にて)開催予定

●2018年2月～3月

広報誌『犬山学』第2号刊行予定

※2018年4月以降に犬山学サイエンスカフェ (市民向け)なども開催していく予定です。

広報誌「犬山学」 創刊号

発行日：2017年10月6日

発行：名古屋経済大学 犬山学研究センター
〒484-8504

愛知県犬山市内久保61-1

TEL：0568-68-3282

FAX：0568-67-0724

MAIL：inuyamagaku-c@nagoya-ku.ac.jp